



近畿自然歩道で野外の解説

第14回テーマ： 六甲山の森林植生と土壌

講演内容

- 六甲の森林植生・地質と土壌の基礎知識
- 森林を構成している植物
- 森林土壌の特徴

実施日：平成21年5月16日（土）
午後1時～3時45分
場 所：六甲山自然保護センター



講師：小館 誓治さん
プロフィール

1962年福岡市生まれ。1992年神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了。主に森林の植生と土壌の関係を研究。兵庫県立人と自然の博物館研究員。兵庫県立大学助教。

「六甲山を活用する会」に改称して心機一転！

5月も半ばですが、ときおり雨がばらつき肌寒い日でした。自然保護センターではストーブで暖をとりました。

午前中は第7回目の総会を開催しました。会の名称を「六甲山を活用する会」に変更することになりました。自然保護センターだけにとらわれず、六甲山全体を視野に入れた活動を展開します。会員から「名前が大きすぎるのでは？」という声もありましたが、名前に即した意義深い活動を続けていきます。

野外観察で土壌の違いを体感しました

市民セミナーには、人と自然の博物館の研究員・小館さんに六甲山の植生と土壌についてお話いただきました。

自然保護センターでは、植生と土壌についてポイントを解説されて、屋外で実地の解説をしていただきました。近畿自然歩道の散策路を歩いて周辺の植物を観察し、植生や土壌について分かりやすくお話されました。スノキの葉を食べたり、土壌の違いを触って比べたりと、現物に触れる体験ができ、参加者には大変好評でした。



モグラの仲間も出てきました

土壌は岩石の風化物と有機物が混合したもの

六甲山は多様な環境があるものの、林は手入れされず、単一の植物が優占して単調な植生のところが多いとのこと。土壌は岩石の風化物と有機物の腐朽生成物が混合してできたもので、粒子の大きさによって「礫」や「粘土」に名前が変わります。六

甲山の表面の地質は「六甲花崗岩」と「布引花崗閃緑岩」があり、堆積岩質の土壌の「神戸層群」という地層もあります。

野外では、散策路脇の林はアセビやササが優占し、他の植物が出てこられないと解説されました。検土杖や土壌硬度計といった器具をつかって土壌調査の実演をしていただきました。尾根と谷では環境が大きく異なり、土壌も変わることが分かりました。



野外観察の様子

六甲山に多様な植生を取り戻したい

小館さんは散策路脇のアセビやササを切ると、新たな植物が芽生える可能性があると話されました。六甲山では林の手入れがされずにアセビやササがはびこっている場所が数多くあります。私たちが進める環境整備活動にも後押しをいただき勇気づけられました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 田辺 征三

六甲山を裏山のように思って30年余り暮らしてきたが、このセミナーに始めて参加して、今まで見過ごしてきた様々な自然の営みについて再発見でき、有意義であった。

「アセビ」がそんなに他の植生に迷惑をかけているのか。「ミヤコ笹」は弱小植物の生育を、いかに妨げているか。自然は厳しい生存競争の場であると、再確認できた。

六甲山の自然保護に微力ながら参画したいと思った。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、灘区役所

公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託TaKaRaハーモニストファンド